

公益社団法人薬剤師認定制度認証機構
令和5年度 第8回理事会 議事録

1.日時：令和6年3月8日（金）10時30分～12時30分

2.開催方式：Zoom ミーティング

<https://us06web.zoom.us/j/89886221561?pwd=dGPsf9r0agkvQharRP6C6xfYikF0TO.1>

ミーティング ID: 898 8622 1561 パスコード: 172497

3.出席者：

（理事） 青野由利、赤池昭紀、乾 英夫、太田 茂、奥田真弘、久保田理恵、中垣俊郎、
安原真人、山田勝士

（監事） 齊藤 勲

（顧問） 吉田武美（11時入室）

（来賓） 太田美紀 厚生労働省医薬局総務課薬事企画官

（事務局） 伊藤 喬 事務局長、松本宜明 事務局長補佐、田中美香、鈴木春美
円城寺大樹（円城寺大樹税理士事務所）

審議事項

- （1） 第1号議案 令和6年度事業計画（案）に関する件
- （2） 第2号議案 令和6年度収支予算（案）に関する件
- （3） 第3号議案 令和6年度「会費の規程」（案）に関する件
- （4） 第4号議案 令和6年度定時社員総会に関する件
- （5） その他

報告事項

- （1） 令和5年度第1回ビジョン委員会
- （2） 令和5年度第3回フォローアップ小委員会
- （3） その他

事前配布資料

- （1） 第1号議案関連資料 令和6年度事業計画書（案）
- （2） 第2号議案関連資料 令和6年度収支予算書（案）
令和6年度収支予算書内訳表（案）

- (3) 第3号議案関連資料 令和6年度「会費の規程」(案)
- (4) 第4号議案関連資料 令和6年度定時社員総会(対面及び書面)の開催(案)
- (5) 令和5年度第1回ビジョン委員会議事録
- (6) 令和5年度フォローアップ調査結果(抜粋)

6. 議事概要

安原代表理事が開会を告げ、本日の出席者について、各理事を点呼により確認し、理事総数15名中9名が出席で、定款第30条に基づく過半数に達しており、理事会は成立していることを告げた。本日は、齊藤監事が出席であることを報告した。また、崔理事、武田理事、俵木理事、狭間理事と林理事は欠席の事前連絡があり、厚生労働省医薬局総務課太田薬事企画官が来賓として出席されていることを述べた。

理事会開会にあたり、代表理事より、法人法の定めにより、本年3月31日までに来年度の事業計画と収支予算を内閣府に提出することが義務付けられており、本日の第1号議案と第2号議案のご審議をよろしくお願ひしたいとの挨拶があった。

次いで、来賓の太田薬事企画官より挨拶があった。薬剤師の需給調査と偏在対策、医療計画において地域の中での医療者としての薬剤師の関わりが重要視されてきていること、国の方針としてDXが挙げられており、電子処方箋の推進や薬剤師業務の機械化・効率化が求められる中で今後本格的に対人業務へのシフトを進めていかないと薬剤師そのものの業務のあり方に関わってくるので、国としても調剤の外部委託などの課題に取り組んでいる。さらに、本法人(CPC)の役割とも関連して、薬剤師の質そのものが重要であり、文部科学省と連携しつつ教育と卒後研修をしっかりとやっていくことも課題である。現在、卒後研修のガイドラインを作成中であるが、その位置づけが問題である。CPCによる生涯研修の認証は、薬剤師の質を担保・向上させていく上で今後ますます重要な役割になるので、行政側と連携しつつ、様々なトピックスについて、薬剤師のキャリアパスに繋がるような継続的な教育といった視点からも意見をいただきたいと述べられた。

事前配付資料の確認を行ったのち、理事会規程第5条第3項に基づき代表理事が議長となり、議事を進めた。Zoomによるweb会議であることから、事前配布資料を共有画面に示しながら説明及び審議を進めた。

《審議事項》

(1) 第1号議案 令和6年度事業計画(案)に関する件

代表理事より、事前配付資料(1)を用いて、令和6年度事業計画(案)が説明された。今年には本法人設立から20年となり、この間の薬剤師・薬局に関する主な出来事を概説した上で、本法人は、生涯研修実施機関(研修プロバイダー)、職能団体、学会、大学、行政等と緊密な連携を図り、社会や患者から信頼される薬剤師の生涯学修の質の保証とさらなる向上を目指していくとした。そのために、1)評価基準及びそ

の改善、普及に関連する事業、2) 各種認定制度を評価し、認証する事業、3) 既認証の制度について、認証の更新を行う事業、4) 生涯研修制度の発足、運営等に関する支援、助言、5) 生涯研修制度の将来像及び在り方に関する必要な検討と普及、6) 専門薬剤師認定制度に係る取り組みを実施する計画であることが説明された。また、第2次ビジョン委員会を継続設置し、10~20年後の薬剤師のあるべき将来像に向けた生涯研修制度のデザインについて取りまとめを求めることと、嘱託職員の増員による事務局体制の強化を進める予定であることが説明された。

質疑では、6) 専門薬剤師認定制度に係る取り組みに関して、連携・意見交換の対象として行政や薬系学会連合が含まれるかの確認が求められ、当然ながら対象であると回答された。また、事業計画(案)の誤植について1箇所指摘があった。

誤植の箇所を修正するとした上で、議長から本提案について諮ったところ、全員異議なく、承認された。

(2) 日本病院薬剤師会の特別会員復帰の件

議長より、その他の事項を先に審議することが提案され、議事の順序が変更された。

理事会では、かねてより日本病院薬剤師会の特別会員復帰について協議してきた。本年1月10日に代表理事、林総務担当理事と伊藤事務局長の3名で日本病院薬剤師会を訪ね、本法人の特別会員への復帰の要望書を武田会長に手渡した。この度、武田会長より、日本病院薬剤師会の理事会承認を得て本法人の特別会員に復帰すること、会費として20万円を負担する旨の回答があったことが説明された。

議長より、定款第6条により、会員又は特別会員の入会は理事会の承認事項であることが紹介された。3名の理事から、それぞれ日本病院薬剤師会の特別会員復帰を歓迎し、賛成の発言があった。議長から、日本病院薬剤師会の特別会員資格について諮ったところ、全員異議なく、承認された。なお、奥田理事は利益相反を考慮して採決に加わらなかった。

(3) 第3号議案 令和6年度「会費の規程」(案)に関する件

代表理事より、第3号議案関連資料(日本病院薬剤師会のデータを追加し、事前配信資料から差替え)を用いて説明された。正会員は従来と同様の算定方法であり、特別会員については事前に確認を得ていること、また本議案は社員総会の議題となることが説明された。

質疑では、正会員が特別会員を兼ねる場合の会費負担について質問があり、正会員と特別会員の両方の会費を負担いただく旨の回答があった。

議長から本議案について諮ったところ、全員異議なく、承認された。

(4) 第2号議案 令和6年度収支予算(案)に関する件

代表理事より、第 2 号議案関連資料（日本病院薬剤師会のデータを追加し、事前配信資料から差替え）を用いて説明され、次いで円城寺税理士より補足説明された。予算全体では、収入と支出が同額で収支差額零の予算であり、支出では事務局強化のための給与手当とインターネットの環境整備費が増額され、新たに予備費を設けたことが説明された。

質疑では、コーディネーター養成は従来より課題になっているが、予算案の金額で東京都内の薬剤師相当の人材が確保できるのかとの意見があった。これに対し、今回の理事会から事務局長補佐として松本宜明前日本大学教授に参加いただいております、当面週 1 回の勤務を予定していること、また来週からは現役の女性薬剤師が嘱託職員として週 1 回勤務の予定であることが紹介され、役割分担は未定だが、認証業務を経験いただくことで後継者の養成につなげたいとの回答があった。

理事会の開催について、コロナ禍で Zoom 会議が通例になっているが、今後の開催形式について質問があった。令和 6 年度は 4 回の集合形式の理事会を予定しており、旅費の支出と多忙な理事の出席確保を考えると Zoom 会議が中心とならざるを得ないが、対面で直接話すことも重要であり、できれば 1 回は対面の会議を持ちたいとの回答があった。監事から、対面の会議が原則であり、財政上の制約はあるかもしれないが、できるだけ対面の会議を増やしていただきたいとの助言があった。また、理事より対面と Zoom のハイブリッド方式の開催の検討も要望された。

以上の議論の後、議長から本議案について諮ったところ、全員異議なく承認された。

(5) 第 4 号議案 令和 6 年度定時社員総会に関する件

代表理事より、第 4 号議案関連資料に基づき、本議案では社員総会の日時、会場、開催様式につき審議し、社員総会の議案の内容については次回の理事会での審議となる旨の説明があった。本法人の多くの役員が薬学教育協議会にも関係していることから、社員総会の日程が重ならないよう調整し、6 月 17 日（月）13 時から秋葉原の UDX カンファレンスにて、対面および書面により開催することが説明された。

質疑では、社員総会の議題の決定手順が質問され、社員総会の 2 週間以上前に開催する理事会で事業報告、決算報告などの議題を審議する予定であることが回答された。監事より、決算報告に先立つ監事監査の準備状況について助言があった。

議長から本議案について諮ったところ、全員異議なく、承認された。

《報告事項》

(1) 令和 5 年度第 1 回ビジョン委員会

本年 1 月 22 日に開催された第 1 回ビジョン委員会について、議事録（事前配布資料）に基づき代表理事から説明された。本法人の役割がますます重要になる中で、10

年～20年後の薬剤師の将来像を見据えて、それに向けての生涯教育をデザインすることが委嘱された。初回のフリーディスカッションでは、薬剤師が社会と患者さんのために何をしていけばよいかの議論は重要、医療の予防の部分への薬剤師の関与、薬剤師の職能の拡大を議論していくには他職種との法制度のあり方など幅広の議論が必要、医師や看護師などの医療提供者側と薬剤師と患者の間でそれぞれが患者へのケアをどのように提供していくかについてプロトコルのようなものができる社会環境を作ることが問題解決につながる、薬学的管理が重要なキーワード、セルフメディケーション・健康食品も含めて医療の入口のところで薬剤師に何が出来て何が出来てこなかったのか整理・検証する必要、海外では医薬品と言う広い概念の中で職能を進めてきており OTC も含めた広い範囲での検討が必要、学術会議との連携、町の科学者としての化学物質全般への幅広い知識等、様々な意見が述べられた。今後、若手の薬剤師の意見も採り入れながら、CPC が将来どうあるべきかの議論を整理・発展させていく予定であることが説明された。

(2) 令和5年度第3回フォローアップ小委員会

代表理事より、昨年11月24日から1月14日まで実施した令和5年度フォローアップ調査結果について、事前配付資料(6)に基づき説明された。調査対象は本法人が認証した34件の研修制度であり、34件全てから回答が寄せられ、1月24日開催の令和5年度第3回フォローアップ小委員会で確認された。

調査に寄せられたプロバイダーからの質問の一つに薬剤師研修センターの新規申請要件の変更の経緯に関する質問があり、薬剤師研修センターから回答のあったことが紹介された。

また、2件のプロバイダーからは、無料の研修会が増えていることに関する懸念が示された。これに対し、本法人が認証した認定制度のプロバイダーにより本年2月に開催された研修会137件について事務局長補佐が調査した結果、21件(15%)が誰でも無料の扱いであったことが紹介された。質疑では、研修会の参加者減の原因分析をする中で無料の研修会の影響が考えられていること、生涯研修が持続可能であるためには経済基盤がしっかりしている必要があり、適正な受講料を負担してもらうことが前提となることが指摘された。一方、本法人の調査結果でも無料であることが妥当な事例もあり、一定の条件を示して無料とする、あるいは例示する形で本法人の考え方を示すのが重要との意見があった。有料・無料の議論よりも、本法人としては研修の内容を規定することが重要であり、料金について言及するのであれば、不当に高い価格は許さないが、内容が適切であればこれを安く提供するのはプロバイダーの務めとも考えられるとの意見があった。プロバイダーが事業計画を立てる上で、今回の無料研修会の割合のような情報を共有するのは有用ではないか、無料の研修会は社会的

なインフラとも考えられるので一概に規制することは望ましくないとの意見があった。無料の研修について、有料の場合と研修の中身で相違があるのかとの質問があり、事務局長補佐より、調査した範囲では無料であっても遜色なかったとの回答があった。

認定薬剤師の認定に際して、以前はプロバイダー主催の研修単位を一定割合取得することを条件としている制度が多かったが、コロナ禍を経て他のプロバイダーの単位取得の上限を撤廃する制度が増えている状況が報告された。認証担当理事から、その原因として、自制度で認証を受ける薬剤師を確保したいことと、他プロバイダーの単位の方が取得しやすい状況があることが解説された。

代表理事より、今回のフォローアップ調査に寄せられた質問・意見については、本日の議論も踏まえて、それぞれ回答していく方針であることが述べられた。

報告事項のその他については特になく、議長により確認された。

議論を終えるにあたり、太田企画官より、研修を推進するにあたって、研修の質の評価をどのように行っていくかは大きな課題であり、薬剤師認定制度認証機構においても検討を始めていただける情勢にあるかと思うので、是非行政と連携しつつ、よろしくお願ひしたいとのコメントがあった。

議長より、次回理事会は社員総会の前、5月17日もしくは24日の金曜日の午前か午後で、役員のご都合を確認した上で開催することが案内され、閉会が告げられた。

7. 閉会

以上の議事を終え、12時30分にZoomによるWeb会議を閉会した。

上記の決議を明確にするため、定款第31条第2項に基づき、出席した代表理事および監事がこれに記名、押印する。

令和6年3月8日（金）

代表理事 安原 真人 印

監事 齊藤 勲 印